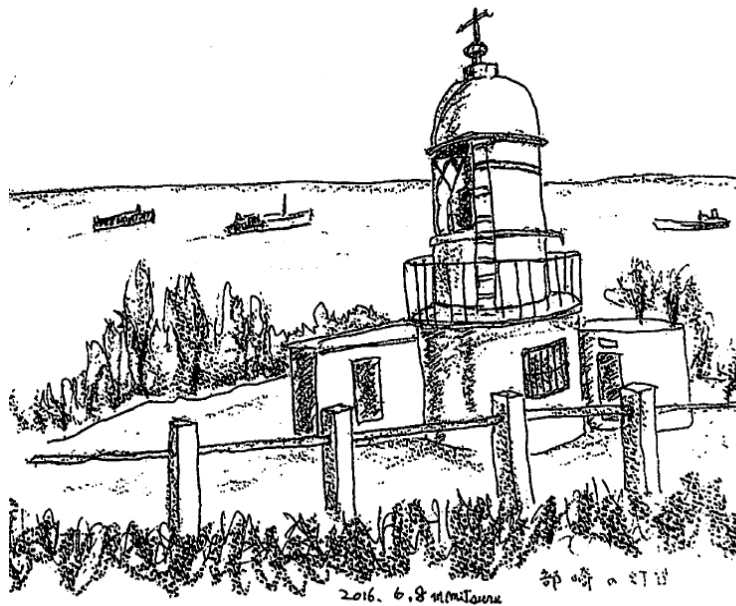


週報2020年6月14日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



2020年6月14（日）聖日礼拝

前奏

力丸勝子 師

お祈り

山崎銀次郎 牧師

聖句唱和

コロサイ人への手紙 3章 15節

讃美

新聖歌 282「見ゆるところによらず」

聖書朗読

ルカによる福音書 18章 35～43節

説教題

「主よ。目が見えるようになることです」

お祈り

御言葉の応答の祈り

讃美

新聖歌 396「慕いまつる主の」

お祈り

終祷（派遣と祝福の祈り）

後奏

力丸勝子 師

報告

山崎銀次郎 牧師

交わりの三省

*互いに愛し合っていますか

*互いに赦し合っていますか

*互いに祈りあっていますか

説教要約

ルカによる福音書 18 章 35～43 節

I. 導入

「主よ。目が見えるようになることです」

ルカによる福音書 18 章中盤から後半を見ると、ある一貫したテーマが浮かび上がってきます。それは「イエス様に従う」という事です。18 節から出てくる、ある役人は、イエス様の「あなたの財産を貧しい人に施なさい（※22 節参照）」という言葉に従う事が出来ませんでした。イエス様の言葉より自分の財産を愛したからです。またその後続く弟子達（ペテロ）は「私達は家を捨てて従った」と言いながら、イエス様がエルサレムに行く本当の理由（十字架の死と復活）を理解することが出来ませんでした。（※28 節～参照）。彼らも又、自負や自尊心が捨てられなかったため、苦難の僕イエス様の言葉が解らなかった為です。

今日の中心人物である、エリコの町の盲人は町の入り口に座って物乞いをしていました。イエス様が町をお通りになる事がわかると、彼は恥も外聞も捨てて、一心不乱にイエス様を叫び求めました。彼の叫びの根底にあるものは「この方による以外に救いは無い」という魂の叫びです。この盲人は信仰によって癒されたのです。つまり「見えるようになりたい！」とイエス様を追い求め続け、信仰を貫いた盲人。一方、心の目が塞がれていたため、イエス様の言葉の真意を求めず、従わなかった役人と弟子達。果たして、イエス様が本当の意味で**見えている人**はどちらですか？これが 18 章の問かけです。結び（43 節）にあるように、イエス様に本当の意味でついて行ったのは、この盲人だけです。なぜなら彼は見えるようにされたからです。今日の大切なポイントは「見えるようになりたい！」と願う、シンプルな信仰です。イエス様だけが私達の心の目を開かせて下さいます。

II. 本論（証）

フィリピンでの留学生活の話です。最初は目新しい事も多く、刺激的で楽しい毎日でした。しかし次第に英語の勉強が上手いかなくなり、とても苦しい時期を過ごすようになりました。一つ上手いかなないと、途端に嫌な部分ばかり見るようになり、食べ物、異文化、人間、全てが嫌になった時期がありました。ある時、かなりの夜更けでした。学校の敷地内にある、小高い丘で（祈祷スペースがあった）泣きながらお祈り

しました。心の中にあるもの全て、洗いざらい吐き出すようなお祈りでした。ふと夜空に目を向けると、満点の星空が輝いていました。それは目を奪われるほどの美しさで、お祈りが止まってしまいました。その時、神様からの声が聞こえてきて、「私はあなたと共にいる」と聞いた瞬間、「私は神様の愛に包まれている」と知り、又涙を流しました。この時の私は**イエス様がいつも自分を見ていてくださる事に気付いていなかった**のです。

私が見ていたものは、目の周りの問題だけでした。そして不安になり、怒ってばかりでした。私がこの時学んだことは、「何か問題があるから祈るのではない、信頼しているから祈るんだ」という事です。それに気付かされてから、友人にも学校の先生にも素直に自分の弱さや現状を打ち明けられるようになりました。すると以前より豊かな人間関係を築けるようになり、以前に増して楽しい留学生活を送れるようになりました。

III. 結論

イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『**私たちは目が見える**』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。」（ヨハネ 9 章 41 節）今日言及した役人や弟子達の問題は「**私が見えているものが全てである**」という姿勢です。それは言い換えると自分が見ているもの（信じているもの）に従って生きるということです。

イエス様はこの後、つまり盲人を癒された後、エリコをお通りになられ、エルサレムに進み行かれ、十字架にかかられました。ここからはつきりわかる事は、イエス様は救い主だということです。癒し主であり、人々の目を開かせ、魂の救いを導いてくださる方です。あの盲人はイエス様の問いに対して「主よ、目が見えるようになることです。」と訴えました。今私達に求められるものは、彼のような信仰です。

イエス様の打たれた傷は私達の心の傷の癒しの為、イエス様の流された血潮は私達の魂が生き返る為です。イエス様はご自分の命を懸けて私達の目を開いて下さった方です。大切な事は私達がイエス様の愛に服従するという事です。その時、御言葉に対する理解が深められ、謙遜と柔和と平和が心を支配します。その私達の心を見た周囲の人々が主をあがめるようになります。（ルカ 18 章 43 節）共に主を見上げ前進する者となりましょう。

新聖歌 282「見ゆるところによらず」

1 見ゆるところに よらずして 信仰によりて 歩むべし

何をも見ず また聞かずとも 神の御約束に立ち

※ 歩めよ信仰により 歩め歩め疑わで

歩めよ信仰により 見ゆるところにはよらで

2 見ゆるところは いかなるも われ早や得たりと 信じつつ

疑うことなく 歩みなば 必ずそのごとくならん ※

3 己が聖きを もて誓う 父なる神は 真実なり

その御言葉を 信ずる者に 成しあたわぬことあらじ ※

新聖歌 396「慕いまつる主の」

1 慕いまつる主の 御招きある今

十字架担い行かん 愛する主の後を

※ 何処までも行かん 何処までも行かん

何処までも行かん 愛する主の後を

2 血潮混じる汗 流し祈る主の

ゲッセマネにも行かん 愛する主の後を ※

3 打たれ ののしられ 辱め受くる

人前にも行かん 愛する主の後を ※

4 君の御恵みに 浸りしわが身は

榮え望み行かん 愛する主の後を ※

ルカによる福音書 18 章 35～43 節

「主よ。見えるようになることです」

【新改訳改訂第3版】

ルカによる福音書

18:35 イエスがエリコに近づかれたころ、ある盲人が、道ばたにすわり、物ごいをしていた。

18:36 群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事ですか、と尋ねた。

18:37 ナザレのイエスがお通りになるのだ、と知らせると、

18:38 彼は大声で、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください」と言った。

18:39 彼を黙らせようとして、先頭にいた人々がたしなめたが、盲人は、ますます「ダビデの子よ。私をあわれんでください」と叫び立てた。

18:40 イエスは立ち止まって、彼をそばに連れて来るように言いつけられた。

18:41 彼が近寄って来たので、「わたしに何をしてほしいのか」と尋ねられると、彼は、「主よ。目が見えるようになることです」と言った。

18:42 イエスが彼に、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを直したので」と言われると、

18:43 彼はたちどころに目が見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て民はみな神を賛美した。